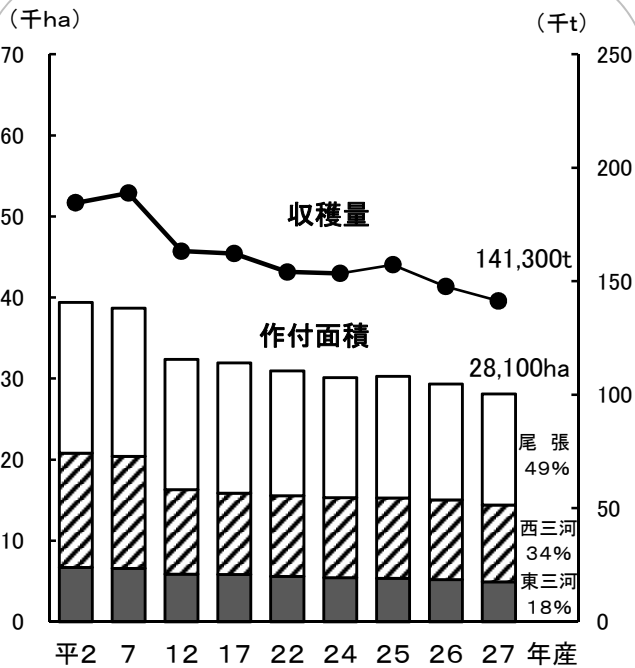


稲(米)・麦・大豆

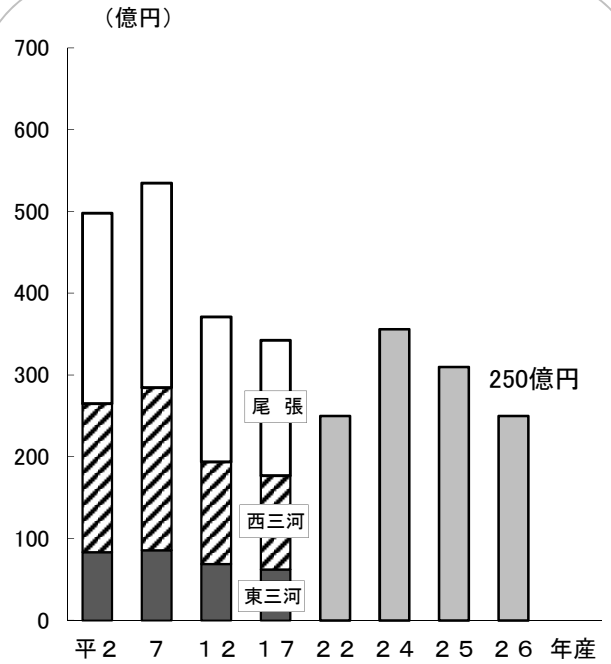
《稲作付面積と収穫量の推移》



(出典: 作物統計)

稲の作付面積は減少傾向であり、平成27年産は前年産に比べ1,200ha作付けが減少し、収穫量は141,300トン(作況指数99)で前年より6,400トン減少した。

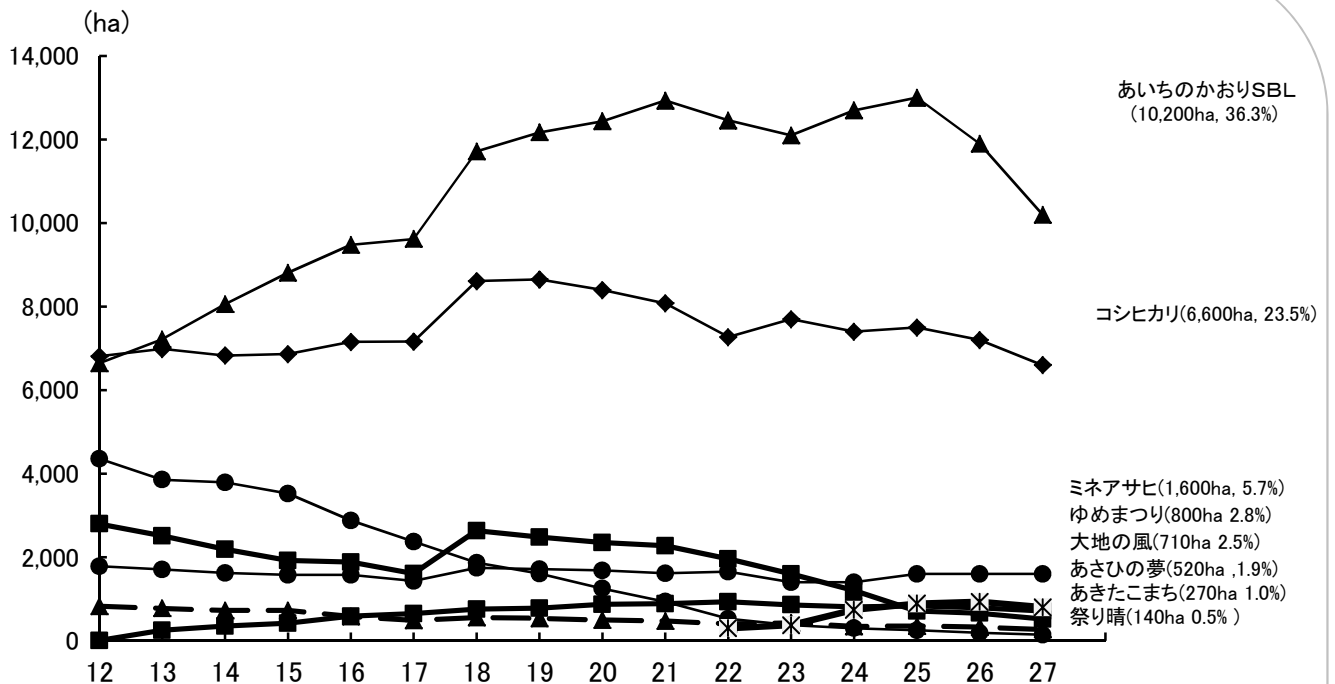
《米産出額の推移》



(出典: 生産農業所得統計)

平成26年産は前年産に対して米価が低く推移したため、産出額は60億円減少した。

《稲主要品種の作付面積の推移》



(出典: 東海農政局食糧部資料等)

注: 「あいちのかおりSBL」には「あいちのかおり」を含む。

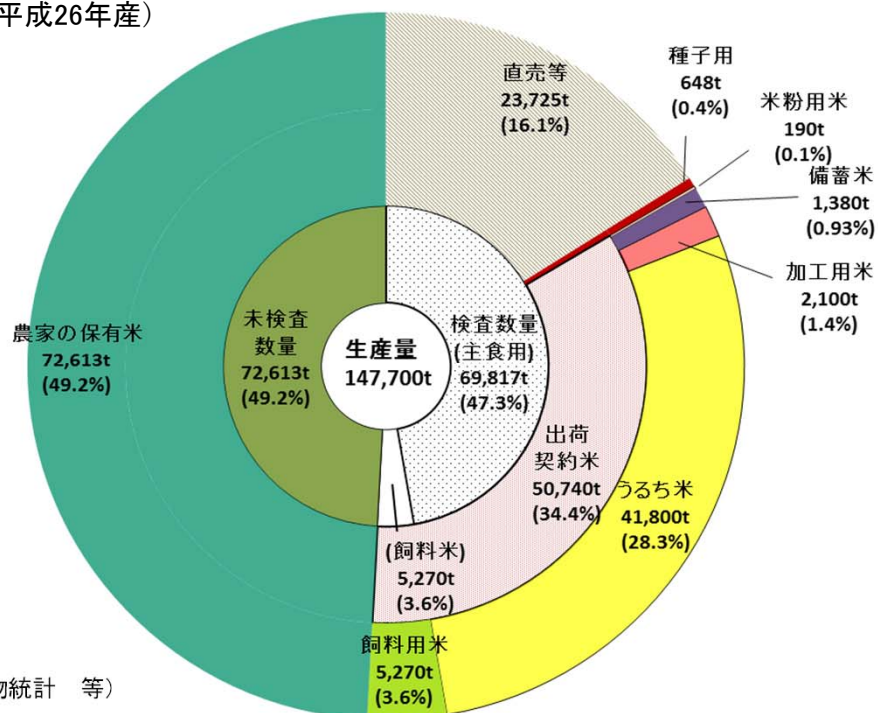
「あいちのかおりSBL」の作付面積は、平成13年産から県内第1位で、27年産は県全体の約4割である。「あいちのかおりSBL」と「コシヒカリ」の合計作付面積は県全体の約6割を占める。

品種別作付面積は、17年産までは作付面積10a以上の生産者を対象とした「品種別作付状況調査結果」(農林水産省調査)に基づく水稲作付面積の内数である。

18年産からは本調査が行われないため、水稲共済引受面積を基に県園芸農産課で推定した。

《愛知県産米の流通比率》

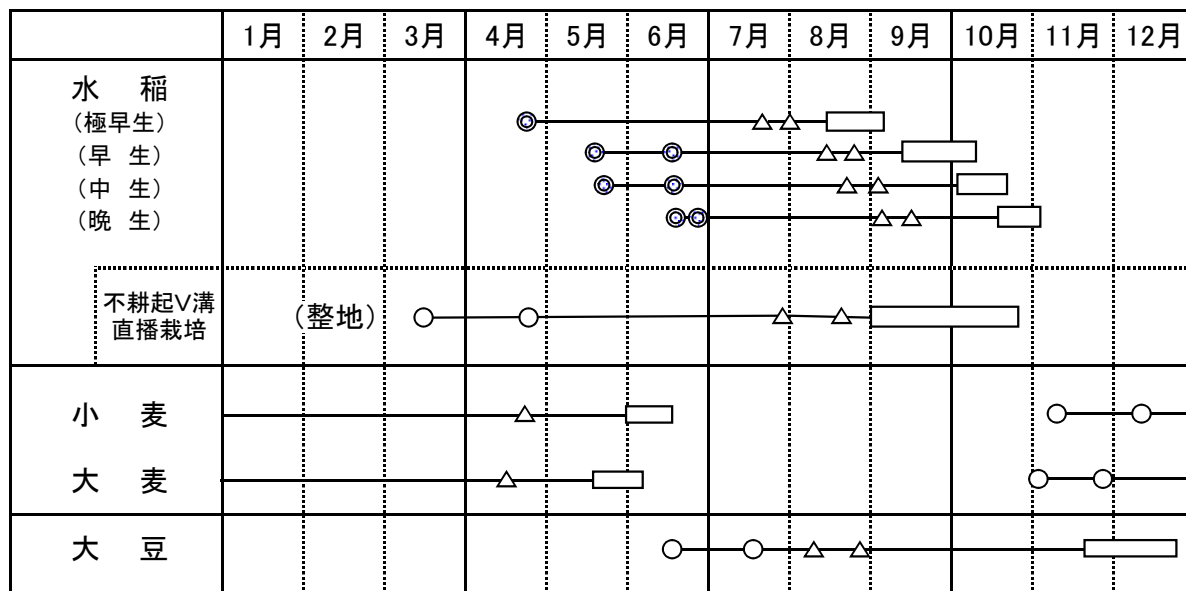
(平成26年産)



(出典：作物統計 等)

県全体の生産量147,700トンに対し、検査数量は約5割の69,817トン。
出荷契約米：契約により農協システムを通して集荷された米。

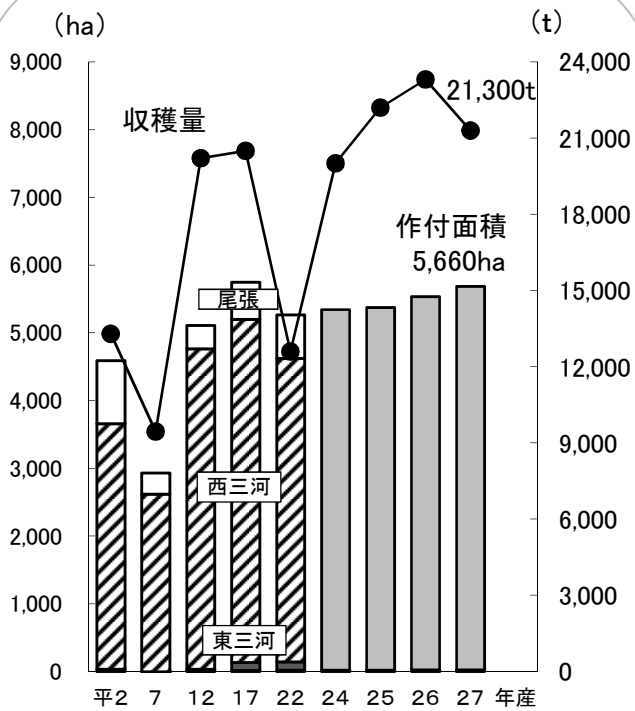
《稲・麦・大豆の作付体系》



凡例： ○ 播種 ⊙ 移植 △ 出穂/開花 ◻ 収穫

注)水稲の早晩生別作付面積の合計と作付面積(県計)とは一致しない。

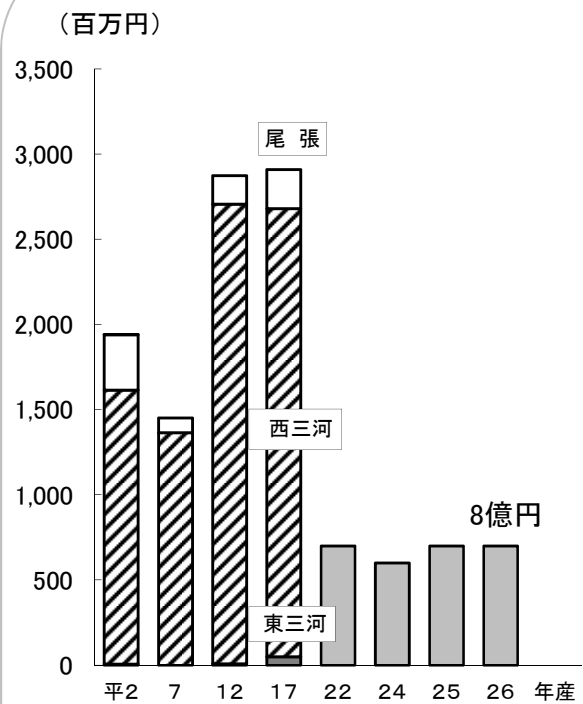
《麦類作付面積と収穫量の推移》



(出典：作物統計)

経営所得安定対策等の推進により、麦は転作作物として定着している。平成27年産は前年産に比べ作付面積は増加したが、播種期の降雨、登熟期の乾燥等により、豊作であった前年産に比べ収穫量は減少した。
平成24年産から地域別作付面積は未公表となったため、県全体面積とした。

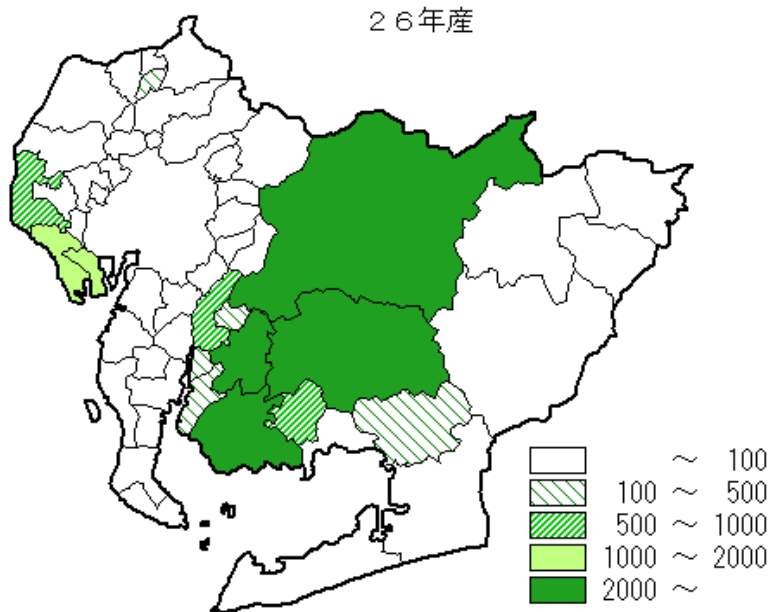
《麦類産出額の推移》



(出典：生産農業所得統計)

平成19年産以降の産出額の大幅な減少は、経営所得安定対策等の助成金額が算入されないことによる。
なお、平成19年以降の市町村別産出額が未公表のため、県全体額とした。

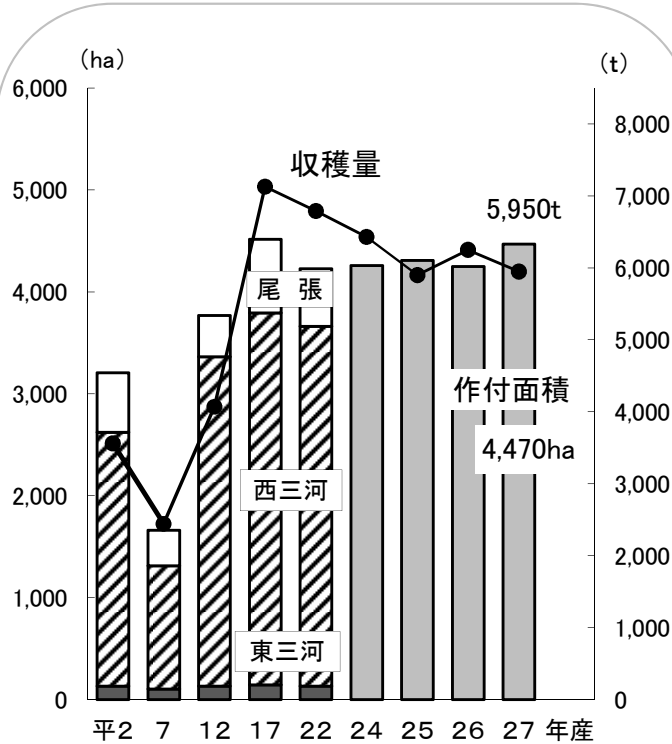
《麦の市町村別収穫量》



(出典：作物統計)

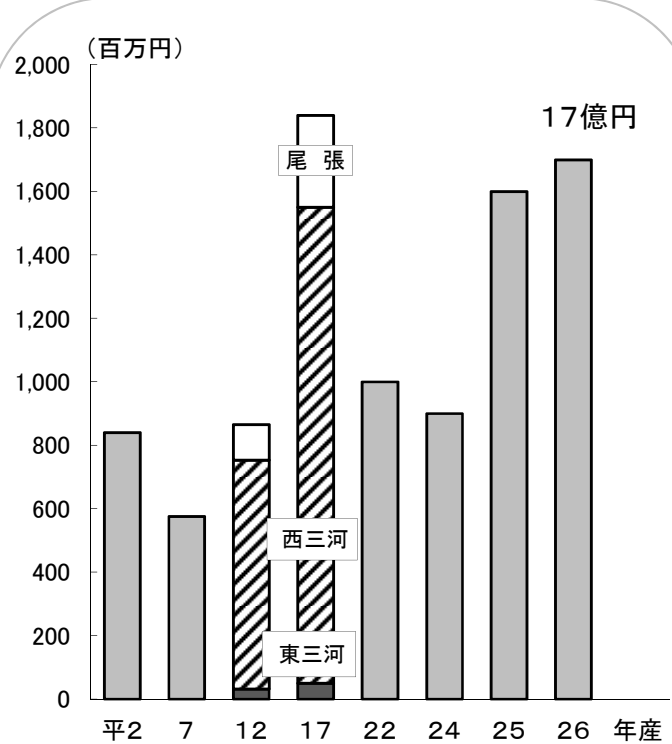
小麦は西尾市、安城市、豊田市、岡崎市など主に西三河地域で、大麦は大口町で生産されている。

《大豆作付面積と収穫量の推移》



(出典：作物統計)
 経営所得安定対策等の推進により、大豆は転作作物として定着している。平成27年産の作付面積は前年より220ha増加したが、登熟期の天候不順により、収穫量は減少した。
 平成24年産から地域別作付面積は未公表となったため県全体面積とした。また平成27年産は平成28年2月時点の速報値である。

《大豆産出額の推移》



(出典：生産農業所得統計)
 平成25、26年産の産出額は、大豆価格の高騰を受けて高くなっている。
 平成19年産以降の産出額は、水田経営所得安定対策の固定払部分が算入されないため、大幅に減少している。
 なお、市町村別産出額が未公表のため、県全体額とした。

《大豆の市町村別収穫量》

